



岡崎市くらしの相談担当者

原のりひこ

担当者レポートNo21

原のりひこ
公式サイト

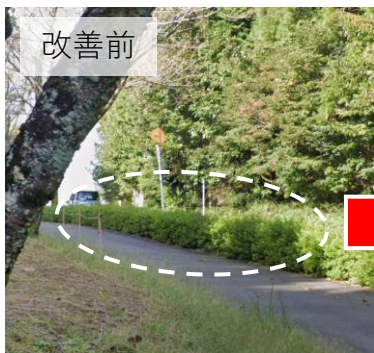


発行日：2026年 1月28日
発行所：トヨタ自動車労働組合
発行人：飯田 智士
編集人：原 紀彦
印刷所：(株)トヨタエンタプライズ

くらしの相談活動 くらしの相談トークで挙げられたお声をご紹介します！

【相談内容】

左右の見通しがT字交差点で、低木が視界を遮り、進入時に車両等が確認しにくい状況となっている。



改善前



改善後

現地を確認すると、左側の低木が視界を遮り、進入時に車両等が確認しにくい状況となっていました。

出会い頭の事故を防止するため、この低木については、安全確保を目的に他の場所へ移植しました。

【相談内容】

1号線 龍城橋の高架下にある歩道にロープが張られている。また一部の支柱が老朽化して歩行の妨げとなっている。

(何の為に設置しているのか不明)



改善前



改善後

現地を確認すると、歩道の一部をロープが囲う形となっており、歩行の妨げとなっている状況でした。

設置理由は、路上生活者が確認されたことによる安全・管理上の理由によるものですが、現在は改善されたこと、老朽化した支柱やロープががえって歩行者の妨げになっていることから、撤去を要請しました。

その他 議会・地域貢献・要望・研鑽等 さまざまな活動を行っています



研鑽活動



交通安全立哨活動



皆さんの安全で安心な住みよいまちづくりを目指し、令和8年度に向けた 予算要望書を市長へ提出



原のりひこと行く彦根バスツアーを開催！

120名を超える地域の皆さまにご参加をいただきました！



松平往還の整備

徳川家康が通ったとされる林道の清掃活動

▲ 地域福祉の推進

- 【子ども食堂】
開催頻度に応じて支援
- 1回以上/週 10万円
- 2回以上/月 6万円
- 1回/月 2万円
- 【フードバンク】
事業に必要な費用を支援
- 基本分 50万円
- 設備加算
冷蔵庫や空調設備など
50万円を加算する。

▲ 物価高対応による市民・子育て応援



- 【子育て応援手当】
児童手当受給者を支援
- 児童手当受給者に一人当たり
2万円を支給



- 【おかざき市民応援商品券】
市民全員に支援
- 市民一人に対して
500円券×6枚
(3千円分)を配布

一般質問で登壇

12月定例会一般質問が行われました。私は3日(水)に登壇し「災害発生時の情報発信について」、「地域活動拠点施設(仮称)岩津センターについて」、質疑を行いました。

★一般質問とは、市議会議員が自らの問題意識や市民から寄せられた声をもとに、市に対して直接質問や提言を行うことができ、岡崎市議会では、定例会の4月以外の年に3回登壇することができます。



質問 災害発生時の情報発信について

近年、全国各地で大規模災害が頻発する中、災害時における「正確で迅速な情報発信」の重要性はますます高まっており、安全に直結する防災情報の発信も、時代の変化に確実に対応していく必要があり、その在り方について質問しました。

Q 岡崎市の防災ポータルサイトは雨量が何ミリか、河川水位が何メートルかといった専門的な数値が並んでいるが、数値だけで自らの身に迫る危険を正確に判断できるのか疑問を感じる。“異常を直感的に理解できる仕組み”という観点が必要ではないか

答弁 現在の防災ポータルでは、インパクトが、市民の皆さまに十分に伝わりにくいという課題がある。今後は、避難情報を防災ポータルの最上位に配置するとともに、平常時とは明確に異なる、視覚的にも強いインパクトを持った表示方法に改善するなど、受け手が異常に気づきやすい仕組みを検討し、必要な改善を進めていく。

質問 地域活動拠点施設(仮称)岩津センターについて

岡崎市では、岩津支所・北部地域交流センター・なごみん・岩津市民センター・北部地域福祉センターをひとつの建物にまとめ、岩津市民センターの用地へ、岡崎市“初”の複合型地域活動拠点施設(仮称)岩津センターの整備を計画しています。

そこで、今年度実施した「拠点施設に必要な機能」について一緒に考えるワークショップを実施。その結果や今後の進め方等について質問しました。



ワークショップの様子

Q 「施設までの移動手段」に関するお声も多く寄せられている。日常生活を支える「交通アクセス」は、北部の拠点となる施設を利用するうえで欠かせない重要なインフラと考える。これまでの意見や今年度の議論を踏まえ、交通アクセスについての考えは

答弁 今年度実施したワークショップにおいても、岩津地域の課題として、「公共交通が不便」「渋滞が多い」といった意見や、「拠点施設に子ども達が来るための移動手段も検討してほしい」という意見をいただいております。地域において交通環境が課題と認識されていることが改めて明らかになった。これまでいただいた多くの意見を踏まえ、移動のニーズ調査などにより、地域の方や利用する方の施設へのアクセス方法などを適切な時期に調査してまいりたいと考えている。

